田代よいとこ－その23－

今年はオリンピックイヤー、ということで･･･田代の聖火ランナー紹介

今年はリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックが開催されます。そして４年後には、いよいよ２回目の東京オリンピック・パラリンピックがやってきます。そこで、今回は田代出身のオリンピック聖火ランナーお二人をご紹介することにしました。本校の第２３代ＰＴＡ会長も務められた伊従和男さんと長田正明さんです。

まず、伊従さんに当時のお話を伺いました。Ｑ＆Ａでまとめました。

Ｑ：ランナーになったいきさつは何ですか？
Ａ：愛川町から何人か選抜されました。私は駅伝の選手だったことから選ばれたんだと思います。ランナーには１６～２０歳という年齢制限があり、当時私は最年少の１６歳でした。
Ｑ：トーチを持って走ったのですか？
Ａ：トーチは写真にあるように先頭の一人が持ち、その後ろに予備のトーチ（万が一聖火が消えてしまったときのため）を持った一人が走り、あとはランナー集団がついて走ります。私は集団の中にいました。
Ｑ：走った区間は？
Ａ：国道１号線の茅ヶ崎付近です。
Ｑ：ランナーに選ばれたときのお気持ちは？
Ａ：当時はまだ子どもだったからピンとこなかったですが、今考えると名誉なことだなあと思います。自分の誇りとなっています。
Ｑ：東京オリンピックで印象に残った競技は何でしたか？
Ａ：やはり陸上の長距離をやっていたので、マラソンの円谷選手とアベベ選手です。甲州街道を走ったと思うとアベベ選手に親近感が湧きましたね。
Ｑ：当時の日本の世相はどうでしたか？
Ａ：高度成長が始まっていて、給料がどんどん上がっていきました。３年で月給が倍になりました。東京オリンピック開催,新幹線開通,東名高速道路開通など世界に向けて戦後の焼け野原からのめざましい復興をアピールしようと日本は頑張ったと思います。

長田さんのお話です。
【参加したときは、厚木高校陸上部の３年生。お姉さんが応援に駆けつけてくれるなど、家族も大変喜んでくれました。沿道の声援もうれしかったですね。ランナーが着るユニフォームから靴、靴下に至るまで、国から支給されました。最後の聖火ランナー・坂井義則さんの聖火点火のシーンがもっとも印象に残っています。次の東京五輪では、やはりマラソンが楽しみです。】

愛川町からはお二人以外に、小島好太郎さん、首藤(旧姓井上)二三男さんが聖火ランナーに選ばれました（お二人とも半原の方）。

＜写真：伊従さん提供＞
上左：茅ヶ崎辺りを走る聖火ランナー
中：当時の伊従和男さん
右：伊従さん、長田さんの聖火ランナー委嘱状

【取材協力】
伊従和男さん、長田正明さん、山口秀雄さん、タウンニュース社